

平成 28 年 9 月 17 日

む つ み

2 7 8

日本国語教師の会「樺の会」

第五十二回日本国語教師の会「樺の会」茨城取手大会報告号

三 ところ 江戸川学園取手小学校

〒302-0032 茨城県取手市野々井一五六七—三

TEL : 0297-71-3353(代表) / FAX : 0297-71-3354

例年、全国行脚をしていた夏季合宿研究会(通称…全国大会)ですが、九年前から新たな実施の形として、東京近郊において、

交通：JR常磐線「取手」駅西口下車 タクシー10分

一泊二日で行うことになっています。今年には第十二回水郷筑波

【宿泊】セントラルホテル取手 TEL : 0297-72-1123

大会以来、実に四十年ぶり二回目の茨城県での開催となりました。懐かしい話、知らなかった話が随所に飛び交いました。

四 日程

第五十二回茨城取手大会の概要を報告いたします。

【第一日】八月六日(土) 江戸川学園取手小学校にて

第五十二回 日本国語教師の会「樺の会」茨城取手大会

一 主題 ことばを育て人間を育てる国語教育

—自ら学び、ともに学び合う国語の教室—

主催 日本国語教師の会「樺の会」

後援 取手市教育委員会

1 受付 八：三〇～九：一五

午前の司会 秋山 誠 (東京)

2 開会式 九：一五～九：三〇

① 開会のことば

② 挨拶 茨城取手大会委員長 若林 富男 (茨城)

③ 来賓祝辞 取手市教育委員会 教育長

矢作 進 (茨城)

④ 大会運営の連絡 大会事務局長 内丸 友之 (茨城)

二 とき 平成二十八年八月六日(土)～七日(日)

3 はじめの話 九三〇〜一〇〇〇

『自ら学び、ともに学び合う国語の教室』

江戸川学園取手小学校 若林 寛男（茨城）

○ 言葉を育て人間を育てる国語教育

言葉を育てるとは、考える力、伝え合う力をつけること

*授業で勝負する

○ 主体的・創造的に学ぶ子どもを育てる

そのためには

1、自問自答の学習をつくる ①肯定的な問い「なるほど」「そうか」「わかった」 ②否定的な問い「おかしいな」「おかしな」「どうなんだろう」 *師問弟答から自問自答へ

2、立ち止まって考える学習 ①どこで立ち止まるか ②どのように立ち止まるのか ③どう考えるのか ④考えたことをどう振り返るのか

3、協働の学習をつくる ◇対話交流力をつけるには

・「二往復半のコミュニケーション」を 応じる力をつける
・「バレーボール型会話」を受け取る（レシーブ）↓回し考
える（トス）↓返す（スパイク）・・・すぐ返すのではない

○ 元祖石田佐久馬先生の「問題作り学習」

☆ えびとり小のリーダーシップ教育：リーダー・イン・ミー

「自ら学び、ともに学び合う国語の教室」のために

- ・魅力ある学習をつくる
- ・心の通う教室をつくる
- ・子ども主体の舞台をつくる

4 研究発表 一〇〇一〜一二〇〇

① 若手の人材育成と学校経営

↳授業づくりを中心とした関わり

静岡市立安倍口小学校 豊泉 行男（静岡）

一、自校のめざす学力をどこに設定するか

○基礎的・基本的な知識・技能

○これらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」

○主体的に取り組む態度

(一)「思考力・判断力・表現力」の育成

①どうとらえるか。

「思考力」・・・自分の考えを創り出す力

「判断力」・・・いくつもの情報、考えを比較検討して、最も適したものを選択する力

「表現力」・・・他の考えを比較修正した考えを、過不足ない表現（主として文字）にする力、もしくはプレゼンテーション力

②授業でいかに育てるか（単元意識）

・一斉学習やグループ学習で、受信・熟考・発信のサイクルを意識する。

- ・互いの考えを説明し合う機会を大切にす。
- ・書くことによって自分の考えを作る場を保障する。

- ・多様な考えを比較検討し、最もよいものを選択する。
- ・振り返りの時間に、まとめを書く。(板書とノート指導重視)
- (二) 校内研修体制をどう確立するか
- 研修の目標(目指す子ども像)をステージ毎に設定する。
- 研究授業は、目標が達成されたかどうかを検証する場とする。

二、実践の経過(若手の人材育成)

- (一) 任せる・見守る
 - ・プロジェクトチームの立ち上げ
 - ・オリエンテーション(教務主任が趣旨説明)
 - ・運動会に向けて(二年目教員が体育主任)
- (二) 具体で語る
 - ・「国語の授業を見合おう会」発足
 - ・六年国語「短歌に親しむ」校長の授業公開
- (三) 一緒に行う
 - ・スモールステップで授業に関わる。

※授業改善は、「方法」ではなく、「授業観」を育てる。
 ・学校のホームページの更新
 ・積極的に学校からの情報発信を。数値による見える化で示す。

※若手職員には、経験させ、フォローアップし、手応えを感じさせ、自信を持たせることが大事。よさを引き出し、褒めて認める。

② 国語教師 石田佐久馬の研究

河内町立金江津小学校 教頭 齋藤 寛(茨城)

○生涯を教壇教師として戦後の国語教育のために捧げてきた。
 ○半世紀に及ぶ教育実践は、子どもと言葉に対する強い愛情で貫かれていた。終始一貫し、「国語科は、言葉を学ぶことを通して人間をつくる」という考えがあった。

○「日本国語教師の会」を発足発展させた。

○延べ千回にも及ぶ全国への研修出張を行った。

茨城へは、百十八回。そのうち、三十九回は実演授業を実施。昭和五十一年には、第十二回全国大会「霞ヶ浦大会」を実施。

○石田先生の三部作

「これからの小学校文法」「これからの読解指導」「これからの作文指導」安曇書房

○「土」卒業記念文集―あれから五十年―より

卒業生が「さくま会」を結成し、文集を発行

三好達治「かつぐ」論争 答えを出さないで考えさせる。

三月末五年生の担任を終えるときの言葉

「教師というのは、船頭のようなもの。お客を船に乗せて無事に向こう岸に運ぶ。そしてまた、新しいお客を乗せて。だから君たちとお別れするのは仕方のないことなのだよ。」

◇特別発言 坪田 秀雄(大阪)

【記録 水垂 弘枝(埼玉)】

◇昼食 一一二〇〇〇～一一三〇〇〇

5 先達の話 一三三〇〇〇～一四一五 午後の司会 水野 光子(千葉)

「戦争児童文学教材は、

子どもたちに戦争を考えさせるものになっていきますか。」

元京女子大学中学・高校 山崎 和男(東京)

◇はじめに、「ご自身のご幼少時について貴重なお話があった。

・麻布生まれである。(二二六事件の年)

・小学校では徹底した体力指導が行われていた。(国に仕えるという意図による) 小学校二年生で逆立ち校庭一周は軽々とこなせた。

・幼年学校(幼年時から幹部将校候補を養成するために設けられた教育機関)には士族でないと入れなかった。

・間引き疎開(火災予防のため家が込み入っている地区の家を間引きして撤去すること)を目の当たりにした。

◇だから「戦跡に遊び半分では行かない。」

第三十九回沖繩大会で初めて沖繩へ。大城将保氏の実践(高校生を戦跡のガマに案内)により、生徒がみずみずしい感受性と想像力で書いた感想に驚いた。戦争を知らない子どもたちに「想像させる」ことで、戦争の問題を身近に感じさせることができるのではないだろうか。

◇「昔は昔、今は今」といった認識でしかないのだったら、教える意味はない。

『一つの花』(今西祐行 作)を果たして教えられるのか。

教材の精選により、かつての教科書のように一年生から六年生まで戦争児童文学作品が並べられているわけではない。単なる文学教材として扱ったのでは意味がない。

『一つの花』の扱い方は確かに難しい。たとえば『大人になれなかった弟たちに……』(米倉斉加年/作)では、弟を死なせたのは「僕」であるという作者の自責の念がベースになっている。このように作品を通して根幹をなすものがあつた方が、小学四年生には分かりやすいのではないか。ともすると、ゆみ子が、ただ単にわがままな子というふうを受け取られかねない。

戦争児童文学を読む基調となる想像力や感情体験を育むために、良い作品にたくさん出会わせたい。『戦艦武蔵の最後』(渡辺清 著)の乗組員の記録文や、日本児童文学者協会六十周年記念出版『おはなしのピースウオーク』(全六巻)といった作品集である。ロンドンの現地校に通う男の子の話(募金をしようとしたら「日本人は野蛮だから加わるな」と言われてしまう。)や、高木あきこ氏の詩など考えさせられる作品が数多く収められている。日・中・韓平和絵本『ぼくのこえが きこえますか』(田島征三 作)など、絵本も好評である。『なぜ世界から戦争がなくならないか』(池上 彰/著)ではドイツの取り組みについて書かれている。先の大戦を反省する教育や難民を受け入れるなど、七十年間ドイツは戦争をしていない。

◇教師の戦争に対する深い洞察力と教材に向かう姿勢の確かさ
戦争がもたらす数々の事象を想像できる力、戦争に対する洞察力と

ともに、子どもたちの想いをより深く洞察できる力が求められている。教材に向かう姿勢の確かさ、つまり指導者は心して平和教育に臨む決意で子どもたちに向かい合ってほしい。

【記録 山田 浩子(埼玉)】

6 パネルディスカッション 一四・三〇～一六・三〇

◇ テーマ「問題作り学習とアクティブ・ラーニング」

◆ コーディネーター 成田 信子(神奈川)

◆ パネリスト 片山 守道(東京) 小山久仁子(埼玉)

中村 和弘(東京)

*パネリストからの提案

片山 アクティブ・ラーニングとしての問題作り学習の可能性

・読みの主体性の確立のための問題解決学習の一形態であり、目指すところは自問自答、自学自習。課題としては、問いの質の保証・一時間の授業展開の工夫・単元構成や学習過程における位置づけがあり、教師による深い教材研究と二人ひとりの子どもの理解が不可欠である。「サボテンの花」の実践で、問い(問題)の質を吟味する力をつけたいと思った。問題作り学習は、アクティブ・ラーニングへの可能性がある。

小山 問題作り学習とアクティブ・ラーニング

・一年生と初めて問題作り学習に取り組んだ実践より。「問題を作ること」「自力解決すること」「対話やグループでの話し合いを通して読みを交流すること」「グループの問題を決定し、全体の場で話し

合うこと」は教材文を主体的に読み深め、他者理解にもつながる。深い学びになっているかは永遠の課題。入学式翌日からの読み聞かせ↓「はなのみち」劇遊びの中で問いを出し合う(伏線)↓二期「たぬきの糸車」自問自答・問題文にする指導・グループの話し合い(教師も入る)などの学習を進めた。

中村 「問題作り学習」は子どもたちの学習過程に何をもちたらずか

・問題作り学習の今日的な意義について、国語に関するどのような「資質・能力」を育成しているか、「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)をどう実現しているかから検討する。言語活動の過程の中で、資質・能力(知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等)を高めるにはどのような学習のあり方が求められるかを、アクティブ・ラーニングの三つの視点(主体的な学び・対話的な学び・深い学び)を明確にして考える。国語科で育成すべき資質・能力は、狭いアビリティからコンピテンシーへと捉え直す。

*相互の質疑応答

片山 学習を終えて、学びをどのように実感したのか。

小山 自分の問題をグループの仲間が大事に考えてくれ楽しかった。

片山 読み取ることと資質・能力との関係は。

中村 問いをもつことによって、課題・目的をもって読み進められる。

小山 「たぬきの糸車」の取り組みは深い学びになったか。

中村 アクティブ・ラーニングは改善のための視点。深まったかどうかではなく、主体的な意欲が高まる問いであったか。

小山 私の実践は問題作り学習の入り口、では出口はどこまでなのか。

片山 問いの構造を意識して話し合えるところまで目指したい。

中村 問題作り学習の経験は、自発的な問題にどうつながっているか。

小山 言葉を既習から考えたり辞書で調べたりなど、生きている。

中村 文章の外への問いも出てくるのか。問いの範囲を教えてほしい。

片山 主題、人物像等の問いもあるが、文章の叙述から作らせている。

*フロアからの質問・意見・応答・討議(主なもの)

○問いをもとに学習をどう構造化するか。問いの構造は。

片山 問いの分類・整理はまだできていない。課題。

小山 答えの段階で同じだと気づくことが構造化と言える。

○人物の視点の中ではなく、外側に立つて私はどう読むか。

成田 問題の答えを考えると付随したものが見えてくる。人物描写をくぐると新しい自分が見えてくる。話し合いから読みが形成される。

○問題作り学習でゴールをもたせるための知恵があれば教えてほしい。

中村 各場面を読みながら大きい問いが出てくる。石田佐久間氏の
本で、子どもの身の丈に合った問いと教師の問いをどう組み合わせるかが今後の課題であると書かれ、それが、教師がもた

せるゴールへつながる。

○単元を貫く言語活動と単元を貫く問いは分けて話したい。

中村 課題解決型学習の課題は作るのに時間がかかり、問題作り学習の問いとは違う。ゴールがどこで見えるかは子どもによって違う。

*今後に向けての提案

片山 問題作り学習をアクティブ・ラーニングとするために子ども主体と教師主導は対極にあるか？教師の主体性・創造性も問われる。

小山 子どもの素朴な疑問をもって学習に当たり、子どもにとっての宝物を大切にしたい。主体的な人間を育てたい。

中村 様々な学習指導の方法が開発されてきたが、いろいろな引き出しをもちながらアレンジしていくことが大切。

*まとめ

成田 問題を解決し、考えるためには、どういう資質・能力が必要か、実践的に考えていきたい。

【記録 橋本千鶴(東京)】

7 懇親会 一八〇〇〜二〇〇〇

JR常磐線取手駅東口『野の花』にて

司会 内丸 友之(茨城) 村上 博之(神奈川)
横内 智子(東京)

【第二目】 八月七日（日） 江戸川学園取手小学校にて

1 受付 八：三〇～九：〇〇

2 実践報告分科会 九：〇〇～二二：〇〇

◆低学年分科会 司会 加藤 智子（埼玉）

①「どんなことばが ぴったりかな」

茨城大学附属小学校 仲田 美貴子（茨城）

未来をつくる子どもを育てる―ことばでつむぐ―というこころで、

国語とゆめの時間（総合学習）をつなぐ単元を設定した実践である。単元に入る前の出合いを大切に、二年生からの「わくわくビデオ」視聴後、子どもたちは、附属小のことを話したいという思いをふくらませていく。授業の実際

【第一次】自分の体験したことをほどこき、それを表す言葉を引き出すことばカードの活用（「附属小のあいいうえお」・ことば集め・ことばクイズ）

【第二次】他者の言葉や体験とつなぐための言語活動の設定（インタビュー）

【第三次】学校探検で見つけたお気に入りの場所やものにくつつく言葉を考え、言葉と言葉のつなげ方の特徴やきまりに気付く

「ほどこく」↓「つなぐ」「おりなす」

自分と友達の体験や言葉を比べて、共通点や違いをとらえ、自分の表現へと生かしていく。

◇特別発言 濱田 芳子（神奈川） 工川 洋（千葉）

濱田 板書に○や×がないように。子どもの感じる心をつぶさないで伸ばして行ってほしい。生活科や総合の学習と繋がっている。長いスパンでやったらすてきな単元になるのではないかな。

工川 言葉は生活の中にある。人との関わりで伸びる。見つけられること、感じられることが大切。人に話したくなるような体験を積みまるとよい。具体経験は抽象化される。

②問いをもって読み深める ―光村凶書 二年 「スイミー」―

江戸川学園取手小学校 田中 久枝（茨城）

読書指導と暗唱に力を入れているということで、スイミーのままで暗唱大会を行うこととした。場面ごとに読み深める学習では、問題作り学習を取り入れた実践である。

◇手立て

読む：音読・黙読・暗唱

話す・聞く：全体の話し合い↓ペアトーク 国語辞典で調べる

書く：課題・まとめ 初発の感想 板書視写 大事なことは共書

き

◇授業の実際

自分で考えた問題を、みんなが真剣に話し合ってくれることで、深く考えていた。子どもの読みは生活経験によって違う。授業では、読み返して分かる問いを考えていく。子どもは言葉を理解する

ために色々な考えを出し合う。他との関わりから思考力を高める。

○特別発言 濱田 芳子(神奈川) 工川 洋(千葉)

濱田 板書にもこだわっている。自力読み(最低三回は)をしてから問題作り。一年間の中で、どこで問題作りをするか、先生自身の年間の学びの計画を作ってほしい。

工川 問いを持てること自体をほめてあげること。理解が深まってくると、問題作りが深くなっていく。「どうして」、「なぜ」の問いは難しい。答えと解決方法を予想させる。

【記録 武藤 彩花(埼玉)】

◆**中学年分科会** 九:00~11:00 司会 横内 智子(東京)

①**ブッククラブの手法を援用して「白いぼうし」を読む**(四年・光村)

お茶の水女子大学附属小学校 岡田 博元(東京)

アクティブラーニングの視点から授業改善を目指し、「ブッククラブ」の手法の一つ有本方式を参考に、作品全体を捉えながら自分の読みを進めた。四年生最初の物語教材だったため、①初発の感想、取り組みたい活動、②人物関係図・イメージイラスト、友達への質問(ビッグクエスチョン)を書く、③人物関係図まとめ、みんなの質問、④新たな問題、続き話、⑤学習感想まとめ、とした。自分の活動が自覚化されよかったが、グループディスカッションを取り入れなかったこと、新たな問題についての話し合いの内容、個人差がある多様な学習者そのまま受け入れて全体指導することなどについては課題が残る。

◇話し合い

・ビッグクエスチョンを選んだ後、グループで話し合うのがよい。グループディスカッションは、大事。問いを先生が整理して子どもに渡せるとよい。

・一人一人の問いを、叙述に戻り根拠をもって解釈し話合っていくことで解決していくようにしたい。読書会の方法もある。

・ビッグクエスチョンを絞ることで、全体で個の考えが生かされ集約されるようにするとよい。

・問題作りの学習とどのようにからませっていくかは、問いを作ること、子どもたちがやっていることがつながつているんだとわかってくることが大事ではないか。やりながら構造化していくようにしたい。

②「問題作り学習『二つの花』の実践」(四年・光村図書)

江戸川学園取手小学校 内丸 友之(茨城)

問題作りの学習は、三年生より三回目の取り組み。初発の感想からの問題作りは、刺激の多い所に目が走り、その部分の問題に偏りやすいため、逆さ読みを取り入れた。全文を読み、場面の設定について読み取った後、問題を作った。問題作りでは、終わりから柱を作り、問い↓答え↓問い↓答えと繰り返しいくうちに自分の疑問や問題の答がどこに書いてあるか、どこの叙述に基づいているのかを考えられる児童が増えてきた。今後どうして、どのようにまで問題の質を高められれば、向上につながる。

◇話し合い

・戦争児童文学として扱い初発の感想を生かすなら、条件を与え、あの意図をもって感想を書かせ、戦争に関することについて考え焦点化するとよい。

・子どもの作った問題に教師が作った問題をプラスして提示し、問題を整理していくようにしたい。また、「戦争に行く」などの言葉に着目した子どもがいたら取り上げるなどして深めていくとよいのでは。
・挿絵は深く想像するというに関わっている。大切に扱いたい。

◇特別発言 黒田 英津子（静岡） 大木 圭（千葉）

大木 ビッグクエスチョン、逆さ読み共にとどのような条件が揃えば深い学びになるのか見当の余地あり。問いを取捨選択する過程の体験も。

黒田 教師が子どもの読みを大切に。課題について話す時、一歩踏み込んで発問し心の奥にある気持ちを掴みたい。

【記録 久保由美子（神奈川県）】

◆高学年分科会

司会 小野澤 由美子（東京）

①「子どもの問いから、物語を読み深める」

—「海の命」（東京書籍）の実践を通して—

お茶の水女子大学附属小学校 廣瀬 修也（東京）

問いを持って読む学習を設定することで、子どもに「読み」の必然性を持たせながらみんなで問いについて考え、みんなで読む面白さ

に触れさせたいと考えた。一方で、すべての文章について問いをつくり、考えていくのは時間がかかりすぎてしまったため、特定場面（太一が与吉じいさに弟子入りしてから場面）での問題作りとした。

○問題づくり：初発の感想の中の疑問や考えたいことを共有することで、「これをみんなで考えていこう」という意識になっていく。問題を場面ごと・主人公・主題などどう扱うかは初発の感想を見て決めていけば良い。また、物語の中なぜ？を問題にするのではなく文章から読み取れることは？という問いの違いを教師が認識して問題作り学習を行う必要がある。

○話し合い：作問者を含め、自分の考えが始めと授業後でどのように変わっていくのか、誰の意見を聞いてどのように変わったのかを記録に残し、明らかにさせていくことで子ども自身も読みや思考の変容が実感できる。分からなかったことが分かった、と実感させることが大切で、そのために「どうしてそう思った？だれか言ってあげられることある？」と切り返して、話し合いの交通整理をしていくのが教師の役割である。

②「生きてはたらく言葉の力を身につけるための指導の在り方」

提案します！〜未来の美浦村デザイン大革命！

「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」

美浦村立大谷小学校 幅野 今日子（茨城）

学習への取り組み方に課題のある子どもたちに、意欲的に学習に取り組んでほしいと考え、同じ中学校に進学する他の二校にスカイ

プを使って美浦村の未来図をプレゼンする単元を設定した。また、導入でのグッドモデルの提示、学習の振り返り、見通しを持たせる学習計画の提示など指導の工夫を行うことで、子どもが「国語が楽しい」と前向きに学習に取り組めるように変容していった。

○幸福の捉え方：「幸福論」という内容であるため、教師がどのようなことを幸福と捉え、どういうものを村の将来の姿としていくのが授業に大きく関わってくる。

○学習意欲の低い子への学習の価値付け：子どもが学習の中でどのように関わりながら作り上げていくのか、「ぼくが役に立った」ということや言葉を使って伝えたり作ったものを持ってもらったりする経験を積んで学ぶ楽しさや面白さを実感させていくことが大切である。すべての学習の中で子どもたちが意欲的に取り組めるように学校全体で考えていく必要がある。

◇特別発言 芦川幹弘（静岡） 松木正子（東京）

二人の共通点はアクティブ・ラーニング、子どもたちが主体的に学び合い、力をつけている。子どもは学んだことを実践して初めてその力を身につける。しゃべってやりとりして通じたときに自分のものになっていく。子どもの力を教師がしっかりと見極め、何ができて何ができないかを把握し、足りない力をつけていけば良い。

【記録】古川久理子（埼玉）

◇記念写真撮影 一三：〇〇〜

3 ゲストの話（記念講演） 一三：一五〜一四：四五

『読書教育の現代的課題と国語教師の役割』

講師 塚田 泰彦（筑波大学大学院教授）

一 不読者の増加と読書環境の変化

生徒達は今、ただ「読むこと」だけでは何の意味もないという世界を彷徨いはじめた。教師も研究者もどうしていいかわからない。伝統的に本を手を取れば自然にお互いが理解できるシステムが崩れている。今日的な読書観で支え直さないと、今日の学習者に響かない。

不読率が高く、国、産業界、教育界一丸となって何とかしなければならぬ。学問の問題よりも先に、学習を駆動する意欲を考へるべきだ。情緒的、感性的なものに手が回っていない。知識でない側に軸足を移して考えねばならない。

二 学力の習得と学習者の意欲や信念との関係

授業を支配する教師の側の問題として、学習者がどういう信念で受けとめているか、視野の外に置かれていて、教師が授業で取り上げる学習内容について意図・計画・方略など手の内を示していない。教師は、流れ、経験、やり方などを伝え、プランの一翼を学習者に預け学習者自身がプランをつくって目標、課題を立て、解決していけるように責任をもたなければいけない。

教師と学習者の間に潜伏している心理的葛藤もある。書けない・

書かない。教師の指導上の意図と学習者への意図とのずれが蓄積し、学習者の意図が隠蔽される。ここには、教師側から提示される規範化した「型」への馴化に生じるマイナスの再生産が生まれる。初めに意図があつて方略が選ばれてくると言う順序性を重視すべきである。

まず、手の内をモデルとして示す。教室状況を丁寧に記録・分析し、学習者の姿が分かれば分かるほど学習者の側に意識が移っていく。切り替えるよい機会である。

読めないのではなく読もうとしない学習者。教師の期待する固定イメージを自分のイメージとして置き換える悪循環を断つためには、潜伏する学習者自身のイメージを顕在化させる「相談」の過程を導入する。そうすることで読書科学研究の情緒的側面への視野を拡大しなければならない。

三 国語科における「読むこと」の現代的課題

精読に偏っていたためか、読み方が乏しい。文字レベルでは理解できる。中学年ぐらいから深く豊かにとらえ直したい。「トマト」で3時間話せるフランスの学生の例もある。解釈・鑑賞・批評まで含めて考えていきたい。

また、高度情報社会の現代、膨大な情報を処理できるようなしていく必要がある。多様な読みの側面のすべてを「自由に柔軟に歩き回る人」として、インターネットの内外に広がる「多様な世界を自由に渡り歩く読書」を進めていきたい。これまでのような、発達段階を想定して一律に段階を追って理想的な読者

を育てるといふ発想からは離れることになる。

四 読書の効用としての学力習得の原理と読書習慣の形成

語彙が大切である。一日二〇分の読書で一年間に一〇〇〇語増える。教師がトレーニンングをすることで語彙を増やせる。

また、教養主義的読書から平板な状態に解放し、ネットの前に立ち、とりあえず読む。漫画はためと言わない。

五 総括―ネット時代の読書指導の要点―

PISA型読解力の定義は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会参加するために書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」であり、学校では、これまで以上に多様なアプローチによる多読や探究型読書、発信型読書が開拓されることになる。

【記録 前原 文江（東京）】

4 まとめの話 一五〇〇～一五二〇

「自ら学び、ともに学び合う国語の教室」

元 浦安市立美浜南小学校 秋山 誠（千葉）

☆ 石田佐久馬先生から学んだこと、「樗の会」から学んだこと

〈石田佐久馬先生授業「ドッジボール」1995919より 秋山学級〉

○多くを語らずに子どもをひきつける

○数直線で場面の確認

○音読の時のことばかけ・指名音読：ほめ方が適切（歯切れがいいね・鉛筆をもって、一人で読む（一人読み）

○視聴写：「行を変えて」細かい指示をしながら
◎授業は楽しくなければならぬ…心が通じ合うこと 教師も
楽しむ

◎学習指導を大事にする…授業のあり方を考える

*教師主導でなければ、子ども主体にはならない。(伊藤昭三先生
のことば)

○秋山学級では、書くこと、読むこと、話すことすべて当たり前
にすることを旨とする。そのためには、心が通う教室であること、
聞きあえる教室であることが大切。

○学び方を学ばせる。知好楽…ことばを好きになることにはか
なわれない。学ぶ楽しさが充実感につながる。ことばの楽しさを味
わわせることを追求したい。

☆ コミュニケーションは心と心のあたたかい交換である。ことば
の学習の本質である。

【記録 小野澤由美子(東京)】

5 閉会式 一五〇三〇〜一五〇四五

司会 平野登志江(千葉)

① 会代表の挨拶 松本 正子(東京)

② 参加者代表の挨拶 安田 恭子(東京)

③ 次回大会のことば 黒田英津子(静岡)

④ 閉会のことば 大会委員長 若林 富男(茨城)

⑤ 諸連絡 大会事務局長 内丸 友之(茨城)

◇ 交流の集い 一七〇〇〇

R常磐線取手駅東口『京おでん 御伽草子』にて

第五十三回日本国語教師の会「樗の会」伊豆熱川大会概要(予定)

1 主題 ことばを育て人間を育てる国語教育

～自ら学び、ともに学び合う国語の教室～(仮)

2 と き 平成二十九年八月五日(土)～六日(日)

3 ところ 熱川ハイッ

〒413-0302 静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1240-14

TEL: 0557-23-2300 / FAX: 0557-23-1390

交通: 伊豆急「熱川」駅下車 マイクロバスの送迎あり。

【宿泊】熱川ハイッ

